



## 「南小まつり」での子供たちの姿から

校長 檀原延和

梅雨の候、色とりどりに咲く紫陽花の花に心が和みます。

5月23日、「南小まつり」オープニングセレモニーとして、「開校50周年はじまるよ記念集会」を行いました。各学級で作ったスローガンの文字を掲げ、全員で読み上げました。そして、南小開校50周年記念歌「みどりのくじら」を斉唱しました。体育館に4年ぶりに全校児童の歌声が響き渡りました。



24日は、南小伝統の「南小まつり」でした。私は、出店している4年生以上の全クラスのお店を体験させてもらいました。子供たちにとってゲームと言えば、電子機器やインターネットを使ったゲームが主流ですが、「南小まつり」は、全てアナログの手作りゲームです。輪投げ、的当て、ゴム鉄砲、なぞとき、ボーリング、宝探し、モグラたたき、ダーツ、クイズ、・・・昭和を思い出すものばかりです。しかし、このシンプルな遊びの中にこそ、子供たちのアイデアや工夫がたくさん散りばめられており、とても楽しいのです。一つ一つのゲームは単純でも、ルールがよく工夫され、実にいい塩梅で1年生から6年生までも楽しめるようになっているのです。相手に合わせて対応する姿は、実に生き生きとしていて、頼もしくさえ見えました。その背景には、子供たちの意見を大切にし、一人一人の良さが発揮できるような、担任の適切な支援があったのだと思います。

昨今、子供の健全育成に関する社会の動きが活発化しています。令和5年4月1日に「こども家庭庁」が発足し、「こども基本法」が施行されました。これに先立つこと国連では、平成元年に「子どもの権利条約」が採択され、日本でも平成6年に批准されました。小金井市では、平成21年3月に「小金井市子どもの権利に関する条例」が施行され、この令和5年5月に、「小金井市子どもの権利に関する条例リーフレット(改訂版)」(※1・2)が出されました。また、令和4年2月に「小金井市子どもオンブズパーソン設置条例」が制定され、9月から相談受付がスタートしています。令和4年12月には「生徒指導提要(文科省)」が、12年ぶりに改訂されました。生徒指導の目標は「自己指導能力の育成」で変わっていませんが、実践上の視点として「安全・安心な風土の醸成」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「自己存在感の感受」が示されました。子供たちの健全な成長や自立を促すためには、子供たちが安心できる集団の中で意見を述べたり、他者との対話や議論を通じて考える機会をもったりすることがとても重要です。その過程で、自分で判断し行動することで自己肯定感や自己有用感が高まっていくのです。「南小まつり」の取組は、正にこれらのことが具現化されている貴重な機会となっていることを、子供たちの姿から実感することができました。もちろん日々の授業や教育活動の中で実践されるべきであることは言うまでもありません。

さて、毎年6月、11月、2月は、東京都教育委員会の取組である「ふれあい月間」となります。いじめや不登校などを未然に防止し、子供たちの健全育成への取組を重点的に行います。本校でも「いじめアンケート」やスクールカウンセラーによる5年生への全員面接をはじめ、教職員への研修等の取組を行います。

これからも、子供たちの健やかな成長のために、保護者及び地域の皆様と学校が一層連携を深め、一人一人の子供の声に真摯に耳を傾け、子供の願いや気持ちをしっかり受け止めることを大切にしていきます。

※1 小金井市 子どもの権利  
に関する条例(概要版)



※2 小金井市 3分でわかる!  
子どもの権利(動画)

